地域の歴史と文化に親しむ 知ってワクワク

ふむふむマップ

北中城村の中央部に位置し、村の中心地となっている「喜舎場地区」。かつての「喜舎場村」創始者といわれる「喜舎場公」や、同じ時代に仲順を統治し、人々から尊敬を集めていた「仲順大主」にまつわる史跡を巡りながら地域の歴史や文化を知ろう！

北中城村役場 バス停下車 〈喜舎場エリア〉

喜舎場公の墓

喜舎場公は喜舎場村の創健者。尊称の「公」を付して喜舎場公と呼ばれ、集落後方に続く丘陵の喜舎場公園内、鳥居をくぐり抜けて石段を上った場所に祀られています。

喜舎場の石獅子

喜舎場公園内にある琉球石灰岩の石獅子。以前は安谷屋の北側にあった巨岩に向かって鎮座していました。この巨岩は、喜舎場に災いをもたらす火山だと信じられており、その返しとして火除け、魔除けとして据えられていたものです。

喜舎場のウフカー

敷地内に、洗濯に使われる「洗濯ガー」と飲料水等の生活用水に使われる「ウフカー」があります。水量が豊富で日照りでも渇水することがなく、正月には若水、新生児が産まれた時には産水を汲み、利用されていました。

EMウェルネス（暮らしの発酵ライフスタイルリゾート）バス停下車〈仲順エリア〉

王妃御墓

舜天王統最後にして、第3代琉球国王とされる『義本王』の妃が眠ると伝えられている墓所。舜天王の墓は「ナスの御嶽」にありますが、この墓に埋葬されたという伝承もあります。

ナスの御嶽

かつて仲順集落を支える位置にナスの御嶽として守護神を祀り、ここが要になって南側が発展していったと言われています。『琉球国由来記』によると、「ナスツカサ御イベ」の神が、ここに祀られています。

仲順大主の墓

琉球石灰岩の岩山の根本を掘り込んでつくられた墓。仲順大主は、1259年に英祖に王位を譲り、放浪していた義本王をかくまったとの伝承があることから、13世紀中葉の頃の人物だと考えられています。

「仲順流り」は仲順地区を立ち上げた仲順大主にまつわる伝承を題材にした念仏歌。現在ではエイサー曲の一つとして知られています。